

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871400172		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森スマイルハウス		
所在地	茨城県高萩市有明町2-98 (電話) 0293-20-5530		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年5月18日

【情報提供票より】(平成20年12月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月6日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 17人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,400 円	その他の経費(月額)	14,700 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,425 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年12月10日現在)

利用者人数	25 名	男性	7 名	女性	18 名
要介護1	6	要介護2	8		
要介護3	4	要介護4	4		
要介護5	3	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井ひたちの森病院、 鈴木歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が母体となっており、月2回の往診や毎日看護師による見守り、歯科医院の必要に応じての往診があり、利用者の健康管理や緊急時は適切な医療が受けられる体制になっている。  
管理者は職員教育を重視することから、積極的に外部・内部研修を受講させたり、毎月事業所での勉強会を開催するなどサービスの質の向上に努めている。  
利用者は地域の人々と共に楽しみや役割りを共有し、職員と共にしっかりと生活感をもって生活している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を運営推進会議やミーティングで話し合うとともに、地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会を立ち上げ改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を全職員で理解するとともに、ユニット間で話し合い自己評価を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し会議録を作成している。 会議では利用者や家族会の代表、老人会の代表、市職員、民生委員、町内会長の出席のもとテーマを決めて話し合うとともに、介護保険制度の勉強会を行うなどサービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情相談受付窓口をユニットごとに設置するとともに、契約時に家族等に説明している。 スマイルハウス高萩通信を発行し、意見や要望を出してもらえるよう働きかけるとともに年3回開催する家族会で話し合い、出た意見や要望を運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 幼稚園の運動会に参加したり訪問するほか、小学校の理科発表会をホームで行ったり、踊りや民謡、フラダンスなどのボランティアを受け入れ交流するとともに事業所主催の夏祭りなどを通し地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は尊厳の保持、自立支援、利用者本意、自己決定の意義と目的を踏まえ、地域密着型サービス独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員でつくった理念を毎日のミーティング時に唱和し、共有するとともに日々の支援のなかで活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園の運動会に参加したり訪問するほか、小学校の理科発表会をホームで行ったり、踊りや民謡、フラダンスなどのボランティアを受け入れ交流するとともに、事業所主催の夏祭りなどを通し地域の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員で理解するとともにユニット間で話し合い、自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果を運営推進会議やミーティングで話し合うとともに、地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会を立ち上げ改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し会議録を作成している。 会議では利用者や家族会の代表、老人会の代表、市職員、民生委員、町内会長の出席のもとテーマを決めて話し合うとともに、介護保険制度の勉強会を行うなどサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護支援専門員が市担当部署を訪問し、事業所の運営やサービス内容の相談を積極的に行い、サービスの質の向上に活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に利用者の健康状態や暮らしぶりを報告するほか、スマイルハウス高萩通信で利用者の暮らしぶりやホーム行事への参加を呼びかけている。 金銭出納帳を作成し家族等に報告しているが、確認印をもらうまでには至っていない。	○	金銭管理は家族等が出納帳を確認し、捺印やサインをもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口をユニットごとに設置するとともに、利用契約時に家族等に説明している。 また、毎月のスマイルハウス高萩通信で意見や要望等を出してもらえよう働きかけるとともに年3回家族会で話し合い、出た意見や要望を運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はなく馴染みの職員が支援を担当している。 職員間で意見の相違があった場合はその都度話し合い、介護支援専門員が相談にのっている。 また、職員の状況に応じて勤務表を変更するなど離職が少なくなるよう工夫をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は施設研修や外部研修を受講できる体制づくりをしている。 また、外部研修に多くの職員が受講できるよう配慮している。 ホーム内で介護知識や技術向上を目指して毎月勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高萩グループホーム連絡協議会を設立させ、2ヶ月に1回研修会や勉強会を開催するとともにサービスの質の向上に活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に実態調査や生活歴を把握するとともに利用者や家族等と話し合い、安心して利用が開始できるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活のなかで利用者と一緒に野菜の種まきや草刈、収穫などを行い共に支え合う関係を構築している。 職員は利用者から物を大切にすることや思いやりの心を教えてもらっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に実態調査や生活歴を把握するとともに、利用者が何を求めているのか、どのように暮らしたいのかなど思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意見を聞き、介護支援専門員や看護師など全職員で話し合って作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は成果を職員で話し合い、3ヶ月または6ヶ月ごとに見直している。 また、利用者に入院や心身状況に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の要望にそって通院や買い物、外泊など臨機応変に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう希望を聞いて支援している。 また、協力医による月2回の往診のほか看護師が毎日見守るとともに、歯科医師が必要に応じて往診するなど適切な医療が受けられる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化した場合における対応に係わる指針」について利用者や家族等に十分説明し同意書を取り交わしている。 医師や看護師、全職員で対応方針を共有し支援に向けて体制が確立している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所は新人教育にプライバシー保護の徹底や個人情報保護法を取り入れ、利用者のプライバシーを損なわないよう排泄や入浴支援の際には十分に配慮している。 重要な書類等は鍵のかかる事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れのなかで昼食と夕食の時間は決まっているが、利用者の体調に配慮しながらカラオケや塗り絵、散歩、ドライブなど利用者の希望にそった支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の能力に合わせて食材を切ってもらったり、下膳を手伝ってもらうとともに利用者と共に食卓を囲みサポートしながら一緒に食事をしている。 また、週1回は利用者の嗜好を取り入れた献立になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は利用者の希望にそって毎日、いつでも入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や趣味を把握し、カラオケや塗り絵、自家菜園など楽しみごとや洗濯物たたみ、掃除などの役割を担ってもらえるよう支援している。 ユニットごとに家族と外出による食事会を実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって買い物や散歩、ドライブなどに出かけている。 車椅子対応のワゴン車を常備し一人ひとりのその日の希望にそった外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており玄関や居室は施錠していない。 また、職員は利用者の状態を把握し、徘徊傾向がある場合は抑制せずに職員の徹底した見守りのなかで自由な暮らしができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施している。 運営推進会議で地域住民の協力を要請するとともに事業所でも毎月避難訓練を実施している。 食料品や飲料水も災害用備蓄品として準備している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分摂取量を記録し全職員で共有している。 また、嗜好調査をして利用者の希望を献立に反映している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は広くカーテンなどで陽光を調節している。 昼の部屋に大きな炬燵を設置し、お茶飲みや昼寝など思い思いに過ごせる場所づくりをしている。 また、季節の行事の飾り付けをして季節を感じとれるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングになっており、利用者はテーブル、椅子、洋服、仏壇、家族等の手作りの写真などを持ち込み利用者好みの落ち着いた過ごせる場所づくりに工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。